

日本遺産 活用例学ぶ

近県3市担当者招きセミナー



日本遺産の活用について学んだ里沼セミナー

日本遺産「里沼」のある館林市は29日、市文化会館で日本遺産を活用した街づくりを推進するための「里沼セミナー」を開いた。いずれも日本遺産のある宇都宮市、茨城県笠間市、埼玉県行田市の担当者による事例紹介に、観光や文化財、行政の関係者約80人が聞き入った。

館林市の近況報告に続いて、各市の担当者が取り組みを説明した。宇都宮市は「大谷石文化」のストーリーを解説。笠間市は栃木県益子町と共同で行っている焼き物の振興「かやまこい」

について説明した。足袋の産地の行田市は保管倉庫の「足袋蔵」が認定されるまでの経緯を述べた。

開会に先立ち、2021年に館林市に移住したフルート奏者、滝沢昌之さんが里沼をテーマに作詞作曲した「里沼の記憶」の動画が上映され、滝沢さんが曲について解説した。

セミナーは里沼の具体的な観光活用を探ろうと、民間事業者や街づくりの関係者を対象に初めて開いた。

(正田哲雄)